

平成4年度福岡市民芸術祭参加

SEINAN CHANTEURS

'92 ANNUAL CONCERT

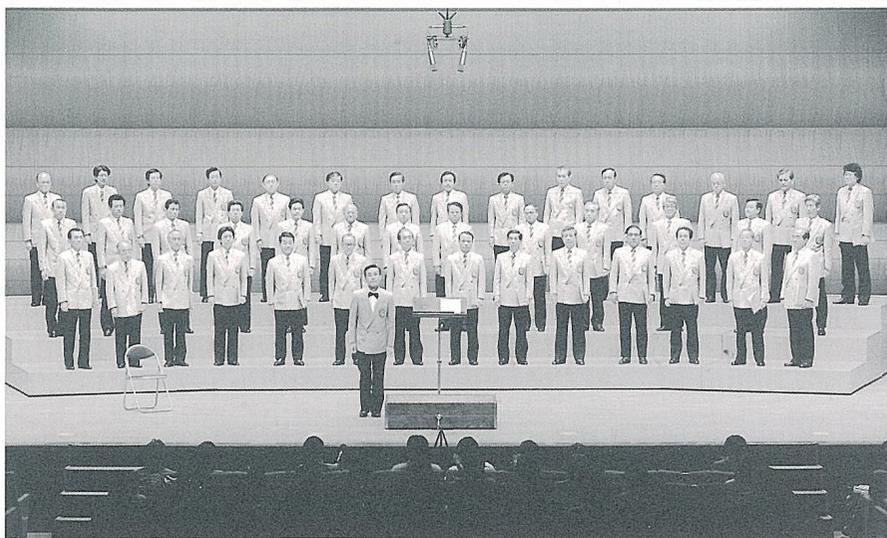


'92西南シャントウール定期演奏会

賛助出演/RKB女声合唱団

1992.11/14日
メルパルクホール福岡

主催/西南シャントウール
後援/福岡市民芸術実行委員会



Hail, Seinan

Seinan, our bastion of faith,
Vivid dream of a bygone year,
Crown'd with honor, love and truth,
Be true to Christ' is our prayer.

Hail to our Alma Mater!
Lighthouse by the sea, radiant,
Glams for her sons and daughters
With God's love, resplendent.

ごあいさつ



徳永麟之助
西南シャントウール会長

今宵、私どもの演奏会にお運びいただき、心より感謝申し上げます。平成4年度の福岡市民芸術祭参加のイベントのうち、洋楽部門だけでも、10月、11月、二ヶ月間に31の催しものがあります。音楽好きと言えども、どの一つを選ぶかはかなり頭を捻らなければならない昨今の状況です。バブルは弾け、円高不況とは言いますが、まずは平和な時代を感謝したいものです。

さて、そんな多くの音楽会の中から、私どもの演奏会をお選び下さった方々、いや、「選んだのではない、押し付けられたのだ」とおっしゃる方々の方が多いかも知れませんが、いずれにしても、貴重な週末をご一緒くださり本当に有難うございます。ドイツの宗教改革者、ルターの言葉に「音楽は神が我々に与えた最も壮大、かつ最も爽快なもの」というのがあります。われわれの音楽は「最も壮大、かつ最も爽快なもの」には程遠いかも知れません。しかし彼のもう一つの言葉「音楽は人の心を穏やかにし、優しくするもの」には幾分近いと自負しております。日頃のご心労の千分の一でもこの二時間お忘れいただければ、私どもにとってこんな幸いなことはありません。あわせて今夜は、RKB女声合唱団の澄み切ったプロの声もお楽しみください。



内海 敬三
西南シャントウール
常任指揮者

我々としては久々のロシア民謡である。特に「カチューシャ」は昭和22年合唱コンクールの自由曲として石丸寛氏の指揮で先輩によって歌われたが、「うたごえ」喫茶の隆盛で、ロシア民謡が広く歌われるようになり「あゝこの良夜」「旧カールガ街道の奇跡」とともに、当時の西南グリーの重要なレパートリーの一つとなった。

「紅いサラファン」はドンコサック合唱団の指揮者セルゲイ・ヤーロフ氏のオリジナル編曲を、荒谷俊二氏が手を加えたもので、ロシア民謡の名曲の一つである。

「鐘の音は…」も「リエズギンカ」も、ともにドンコサック合唱団の有名なレパートリーであるが、当時78回転のレコードを何回も聞いて、彼らのあの地音が震えるようなバスプロフォンで魅せられたことを思い出す。彼らのあのスケールの大きい演奏に及ぶべくもないが、それぞれの学生時代の思いをこめて歌ってみたいと思う。

また、当初はロシア語で歌う予定であったが、時間的に間に合わず断念した。次回こそはと思っている。

多田武彦の「尾崎喜八の詩から」は、「冬野」「天上沢」をはじめとして、変化に富む6曲からなっている。特に、第1曲の「冬野」は、連続する16分音符の緊迫したユニゾンにはじまり、骨太でダイナミックな男声合唱の醍醐味を味わうことができる。

また、叙情曲の多い多田の作品の中にあって、第4曲の「天上沢」は低音の旋律が謡曲風に歌われるが、「冬野」とともに極めてユニークな曲である。

なお、この組曲にはバリトンの旋律が多用されており、演奏の成否は、バリトンの技術の良否にかかっているともいえる。

本日は貴重な週末をご一緒下さり、心より感謝申し上げます。

「よい趣味をお持ちですね」と言われることが多い。「蓼くう虫も好きずき」の喩えのように、自分が心底楽しければ、何だって「よい趣味」のはずだ。言われる様に、特に合唱がよい趣味という感じは少ない。まして演奏会が近づいてくると、練習場の空気までがビリビリと張り詰め、重たく息苦しい。欠席でもすると、次回には人の視線を妙に敏感にかんじたりもする。スケジュールを調整して極力出席するようにしているのだが、どうしても欠席せざるを得ない時もあり、必然的に後れをとってしまう。正直言って休みたいと思う時は少なくない。そんな時「よい趣味」の言葉ほど空虚に響くものはない。頭数が揃わなければものに成らない趣味ごとを選んだ宿命は辛い。だが、だが、美しいハーモニーを作り出した後の帰郷の足は実に軽く、酒も旨い。あの世界的ピアニスト、ウラジミール・ホロビッツが弾き間違いへの攻撃をかわして言った言葉「完全であること自体が、不完全なのだ」を「救いの神」にして、今年もステージに立ちます。ご来聴心より感謝申し上げます。

西南シャントウール一同

PROGRAM

I. ロシア民謡

1. カチューシャ
2. 紅いサラファン
3. あゝ、この良夜
4. 鐘の音は単調に鳴り響く
5. リエズギンカ

指揮／内海敬三
 作詩／イサコフスキー 作曲／ブランデル
 編曲／石丸 寛 訳詩／関 鏡子
 作曲／ワルラーモフ 訳詩／堀内敬三
 作詩・作曲／不詳
 作詩／マカロフ 編曲／内海敬三
 ロシア民謡
 編曲／石丸 寛 ロシア民謡

II. RKB女声合唱団〈賛助出演〉

秋に謳う名曲ア・ラ・カルト

指揮／尾籠一夫

1. 時なし草 作詩／室生犀生 作曲／磯部 俊
2. 海の夕日 作詩／海野洋司 編曲／南 安雄
〔モーツァルト作曲 交響曲第40番第一楽章より〕
3. 花 火 作詩／海野洋司 編曲／南 安雄
〔ドビュッシー作曲「月の光」より〕
4. 或る風に寄せて 作詩／立原道造 作曲／三善 晃
〔女声合唱のための「三つの抒情」より〕
5. 落葉松 作詩／野上 彰 作曲／小林秀雄

intermission

III. Themes from Movies and Musicals

指揮／馬頭経明 ヨーラス／福田 豊
 伴奏アレンジ／中村寛子 エレクトーン／矢野江里子

1. Tammy
2. Unchained Melody
3. Scarborough Fair
4. The Phantom of The Opera
5. Moon Light Serenade
6. New York New York

IV. 男声合唱組曲

「尾崎喜八の詩から」

1. 冬 野 指揮／内海敬三
作詩／尾崎喜八
2. 最後の雪に 作曲／多田武彦
3. 春 愁
4. 天上沢
5. 牧 場
6. かけす

I. ロシア民謡

ロシア民謡について

ロシア民謡と一般に称されている曲のなかには、ロシア人の生活の中から、古く、いつとはなく口ずさまれた詩と旋律でできているもの、民間伝承詩に旋律が付けられたもの、有名な詩人の詩に民間で旋律が付けられたもの、詩も旋律も専門の詩人や作曲家によってつくられたものなど民謡的巨歌わねだものも様々な種類のものがあります。また民族的にみると、全土では100以上の民族があり、いわゆるスラブ系ロシア人はその一つにすぎず、人口比でも総人口の52.4%を占めるに過ぎません。他にバルト、中央アジア、カザフ、コーカサスを代表する種々の民族がおり、そこから生まれた曲も少なくなく、民俗性を顕著に表しています。今夜の「リエズギンカ」などはグルジア民族を中心とするコーカサス地方とイスラム教の影響がはつきりうかがえます。この様に一口にロシア民謡と言っても、厳密にスラブ系ロシア民族の民謡を意味していないことをお断わりしておきます。チャーナルがロシアを「謎の、そのまた謎の謎」と評したのは民謡の世界にもあてはまるようです。だが総じて、大陸的でおおらか、粗野な面もありますが、誠に情感豊かで、繊細緻密な面を多く、この曲は忍ばせています。

カチューシャ

「君なき里にも、春は忍び寄りぬ」の一般的訳詩から分るように、国境守備にあたる兵士に想いをよせる故郷の恋人の心情を綴ったものです。イサコフスキーの詩に旧ソビエト連邦の代表的歌謡作曲家ブランデルが曲をつけたのが1939年ですから、かなり新しい曲です。西南クリエのために石丸寛氏が編曲し、昭和22年当時コンクール曲として歌った原形でお聞きいただけます。

赤いサラファン

「サラファン」とはロシアで結婚の時に新婦が着る袖のない晴れ着のことで、精巧で美しい刺繍で飾られています。この曲はサラファンを仕立てている母親と娘の情景を会話風に歌った詩に、19世紀のワルラーモフが曲をつけました。「私はまだお嫁に行かないのだから」、「いつまでも若くはないんだよ、これを経ていると、私の娘の頃の思い出が甦ってくるのよ…」時はたっても適齢期の娘と母親の会話は同じようです。

あゝ、この良夜

ロシア民謡としては珍しい6/8拍子のこの歌は、「紅いサラファン」と同様に行事（結婚葬式）の歌である。特徴として、娘と母親、鷹と雛、河と都会のように、二つの対称的なものがうたい込まれる生活の歌で、この曲では、嫁いだ娘と彼女を愛した青年である。

一度は愛を語り合った女性が、雪の日、鐘の音とともに若者を残し嫁いでゆく、絶望した青年は自らの命を断つ。残るは着いた月の暗々と照る果てしなく雪の荒野だけである。

鐘の音は単調に鳴り響く

「指輪」「夜」「鐘」はロシア民謡によく取り上げられるモチーフです。鐘はトイカの鈴を意味する場合も多いのですが、この曲の場合は教会の鐘でしょう。失恋の悲しみに胸を震わしながら故郷を去っていく若者の感情が、駆逐のもの悲しい歌声と、さびしく響きわたる鐘の音、馬車の轍である埃などの情景によくマッチして、哀愁を誘う名曲です。今宵は内海敬三の編曲でお聞きいただけます。

リエズギンカ

コーカサス地方にのこる儀式の歌。アラアの神への静かな祈りに始まる歌唱は、低音部の完全五度で表される。祈りのあとの緩やかな2/4拍子の踊りは、チェコのチャルタンチュと同じ様に、高揚するにつれて次第に早くなり、遂にプレストにまで高まり、最高潮に達する。なんとも力強い民謡である。なおリエズギンカはコーカサス地方一民族の名称で、この地方で、広く愛された曲が「リエズギンカ」である。

II. 秋に謳う名曲ア・ラ・カルト〈賛助出演〉

RKB女声合唱団



指揮
尾籠 一夫

武蔵野音楽大学声楽科卒業。同専攻科終了。鞭幸枝、光信貞録、クマ・シユメーデス各氏に師事。東京混声合唱団、日本合唱協会を経て帰郷。主な演奏会「宮崎憲子・尾籠一夫ジョイントリサイタル」、「メサイヤ」、フオーレ「レクエム」、グノー「ミサ・ソレムニス」など宗教曲のソリストとして多数出演。オペラでは、西日本オペラ協会の「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」「ヘンゼルとグレーテル」「蝙蝠」森脇憲三作曲のおペラ寄席「電話」「塵台」「身替わり座禪」などに出演。現在、RKB女声合唱団、太宰府混声合唱団、コーラスうめの実指揮者。近畿大学九州短期大学教授。



ピアノ
山尾 美保

福岡市出身。桐朋学園大学ピアノ科卒業。ピアノを安浦規子、故井口基成、小島準子の各氏に、室内楽を平吉毅州、中川良平、岩崎淑の各氏に師事。卒業後、合唱、室内楽の分野で活躍する。1990年、ウィーン、モーツァルト室内オーケストラと協演。1991年、東京・青山円形劇場にて「五線譜の中の動物たち」のピアニストとして出演。1992年、ヴィラノフ弦楽四重奏団と共演。現在、福岡音楽学院（桐朋学園こどもの為の音楽教室）講師。RKB女声合唱団専任ピアニスト。



RKB女声合唱団のプロフィール

昭和29年、RKB毎日放送の準専属合唱団として誕生。故米倉美枝を常任指揮者に、多彩な客演指揮者を迎えて、ラジオ、テレビ、コンサートに活躍。ブラームス、シューベルトなどの古典からブリテンなどの現代音楽、さらに三善晃を中心とする現代日本の作品に至る幅広いレパートリーで、名実ともに九州合唱界のリーダーシップをとって活動を続けている。いくつかの民間放送専属合唱団が解散した現在においても、土曜日朝のテレビ「RKBコーラス仲間」などのシリーズ番組で県民市民のファンを獲得し、合唱界、マスコミに絶えず新風を送りつづけている。現在、メンバー約40名、ピアノ教師、小、中学校の先生、OL、専業主婦など、さまざまな職業と世代を網羅している。

常任指揮者/尾籠一夫 専任ピアニスト/山尾美保 代表/香月ハルカ

III. Themes from Movies and Musicals

■コーラスアレンジ 福田 豊



指揮
馬頭 経明

1959年、西南学院大学商学部卒業。西南学院高校、大学を通してグリークラブに在籍在学中、学生指揮者。1954年、西南シャントウール創設時に高校3年生で同級生4名と参加、合唱コンクールに出場。現在、ヤマハ株式会社九州支店勤務。



ピアノ
中村 寛子

福岡教育大学卒、同大学院終了。作曲、シンセサイザーを内山信氏に師事。1984年、シンセサイザーとマリナーによる自作コンサート。1988年、ジュネスオーケストラと共演。1989年、長崎大学管弦楽団とサンサース作曲「オルガン付」のオルガン奏者として共演。現在、(財)ヤマハ音楽振興会指導スタッフ、西日本オペラ協会ピアニスト、福岡教育大学非常勤講師。



エレクトーン
矢野江里子

熊本音楽短期大学卒業。在学中、第20回ヤマハエレクトーンコンクール九州大会出場。第21回ヤマハエレクトーンコンクール九州大会入賞。その後数多くのヤマハコンサートに出演。最近では、平成3年度福岡市民芸術祭において、森脇憲三氏の創作、演出による歌舞伎オペラ「身替り座禪」公演のエレクトーン伴奏を担当。現在、財団法人ヤマハ音楽振興会西新パレスセンター講師。(財)ヤマハ音楽振興会海外指導課派遣講師。

今夜は皆様懐かしい映画やミュージカルでヒットした思い出の曲をお送りいたします。ご存じの曲でしたら、皆様も一緒にお歌い下さい。

TAMMY

日本では公開されなかった、デビー・レイノルズ、レスリー・ニールセン主演による1956年の映画「タミー・アンド・パチューラー」の主題歌です。作詩作曲はボタンとリボンやモナリザなどのヒット曲を書いたジェイ・リヴィングストンとレイ・エヴァンスのコンビ、1957年9月にデビー・レイノルズのレコードが全米ヒットパレードの第一位にランクされミリオンセラーとなりました。原曲は三拍子ですが今夜はフォービートで歌われます。

UNCHAIND MELODY

作詩作曲はハイザーレットとアレックス・ノース。1955年映画「アンチェインド」の主題曲。レスバクスターやアル・ヒプラーのレコードでベストセラーを記録しました。1990年映画「ゴースト/ニューヨークの幻」でライチャーズ・ブラザーズの歌でリバイバルヒットしました。美しいメロディーラインをもったスローバラードな恋の歌です。

SCARBOROUGH FAIR

1957年にトム & ジェリーの名でデビューしサウンド・オブ・サイレンスの大ヒットで人気者になったフォーク ロック グループのポール・サイモンとアート・ガーファンクルの作詩作曲で1968年の映画「卒業」のなかでミセス ロビンソンやサウンド・オブ・サイレンスと共に歌われました。スローテンポで静かに詠唱されます。今回のステージで唯一のアカペラ（無伴奏）で歌われます。

THE PHANTOM OF THE OPERA

ミュージカル「キャッツ」と共に、この「オペラ座の怪人」もロンドンで大当たりをとってブロードウェイに進出した作品でミュージカルのアカデミー賞といわれるトニー賞を1987年に受賞したアンドリュース・ロイド・ウェブの作品です。1861年パリ オペラ座では次々と奇妙な事件が起きていた。ヨータス・ガールのクリスタルを盗み、彼女をプリマにしようとする「オペラ座の怪人」の仕業である。オペラ座に新しいオペラ歌手が来た。彼はクリスタルと恋に落ちる。二人の恋が許せない怪人は自作のオペラ上演中に、彼女をさらう。だが後を追ってきたラウルとクリスタルの愛の深さに負けた怪人は、一人静かに姿を消します。

MOONLIGHT SERENADE

第二次対戦中、音楽隊をひきいて前線を探問し1944年空軍少佐に昇級したが霧の英仏海峡で消息を絶ったバンド・リーダー、クラレンス・マラーの、楽団のテーマ曲として、あまりにも有名です。クラリネット・リードによる独特なサウンドは今でも皆さんに親しまれています。映画「クレムリンの物語」の主題はジェームス・スティーヴンソンとジョン・イアソンで、歌詞はミッチェル・ハリッシュが後に書きまじりました。

NEW YORK NEW YORK

ライザ・ミネリ、ロバート・デニロ主演のミュージカル映画「ニューヨーク・ニューヨーク」の主題歌で作詩作曲は、フレッド・ワエッソとジョン・キャンダーです。レイ・コニフ、シンガーズやフランク・シナトラなど多くのシンガー達によって歌われています。今宵最後の曲はレイ・コニフシンガーズスタイルで楽しく歌われます。

IV. 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」

作曲者からのメッセージ 多田 武彦

92定期演奏会おめでとうございます。また昨年に引き続き、私の作品を採り上げていただき、厚く御礼申し上げます。「温厚篤実なお人柄と、その清廉な作風によって、多くのファンを擁しておられる尾崎喜八先生」の詩に、1973年（昭和48年）に初めて作曲したのが、今日演奏していただく組曲「尾崎喜八の詩から」です。初演後、二十年近くになりますが、多くの合唱愛好家のかたがたに愛唱していただきましたし、新作の依頼に際しても、「出来ることなら、尾崎喜八の詩による組曲を……」との希望が多く、その後も、「尾崎喜八の詩から・第二」「樅の樹の歌」「秋の流域」（今年12月初演予定）「尾崎喜八の詩から・第三」（来年7月初演予定）の組曲を作りました。ご高承のとおり、西南シャントウールは、常に力量感と繊細性を兼備し、詩曲の精神的内容や抒情性を豊かに表現されてこられました。今日もきっと、尾崎喜八の清廉な抒情の世界が広がるものと信じています。

I 冬 野

いま 野には
大きな堅琴のような夕暮が懸かる。
厳肅に切られた畝から畝へ霜がむすび、
風の長い息音がはしり、
最初の白い星がひとつ
もっとも高い鍵を打つ。
冬は古代のようにひるびると枯れ、
春はまだ遙かたが
予感はずでに天地の間にゆらめいている。

わたしはこの暮れゆく晩い土をふんで
わたしの手から種子を播く、
夕日のようにみなぎって
信頼のために重い種子を。

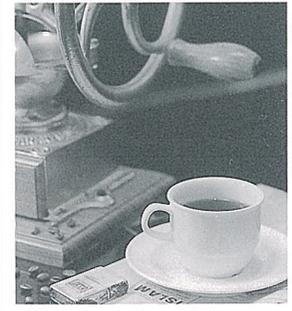
それは沈む、
深く仕えるもののように、
地底の夜々を変貌して

おもむろに遠い黎明をあかるむために。
きよらかな、澄んだ凝縮が感じられる。
ただ周囲の蒼然たる沈黙のなかで
わたしの心が敬虔な讃歌だ。
そしてもう聴いている、
どりの野が祭のような、
燃える正午が翡翠いろの
海のような六月を……

II 最後の雪に

田舎のわが家の窓硝子の前で
冬のおわりの花びらの雪、
高雅な、憂鬱な老嬢たちが
朝から白いワルツを踊っている。
その窓に近い机にむかって
私の書く光明の詩、
早春の夕がた、透明な運河の
水や船や労働を織りこんだ生気の詩。
雪よ、野に藪に、畠に路に、
そして私の窓の前、
お前たちの踊る典雅なウイナ・ワルツの
その高貴さを私の詩に加えてくれ。

やがて遠い地平から輝く春が
微風と雲雀とのその前駆を送るとき、
古い詩稿に私は愛を感じるだろう、
お前たち、高雅な憂鬱な老嬢たちの
窓の前でのあの最後の舞踊のため、
私の内でもいつも楽しい記念のため。



coffee
FUJIKAN
Since 1960

- 天神朝日会館一階店
- 天神ビブレB1店

COFFEE
BLENDS
ブレンド コーヒー

- 天神西日本ビルB1店
- 博多駅ビル一階店
- 香椎セピア通り福銀横店

**Since 1960 トラッドな
コーヒーショップ**

「藤館グループ」
創業36年、藤館グループはお客様のニーズを大きくついにしりました。ヒシネスマン等、忙しく時間があまりない人へ、通りすかりのオアシス・アップレンス（御田コーヒーの店）。時間に余裕がある時、せわしい街の流れから出て、くつろいだ時間が欲しい人へ、トラディションナルスペース藤館。主役はお客様、コーヒーは脇役を助めます。

III 春 愁

— ゆくりなく八木重吉の詩碑の立つ
田舎を通過して —

静かに賢く老いるということは
満ちてくつろいだ願わしい境地だ、
今日しも春がはじまったという
木々の芽立ちと若草の岡のなぞえに
赤々と光りたゆたう夕日のように。

だが自分にもあった青春の
燃える愛や衝動や仕事への奮闘、
その得意と蹉跎の年々に
この賢さ、この澄み晴れた成熟の
ついに間に合わなかったことが悔やまれる。

ふたたび春のはじまる時、
もう梅の田舎の夕日の色や
暫しを照らす谷間の宵の明星に
遠く来た人生とおのが青春を惜しむということ、
これをしもまた一つの春愁というべきであろうか。

IV 天上沢

みすず刈る信濃の国のおおいなる夏、
山々のたたずまい、谷々の姿もとに変わらず。
安曇野に雲立ちたぎり、檜穂高日は照り曇り、
砂に這う這松、岩にさえざる岩雲雀、
さてはおりの言葉すくなき登山者など、
ものなべて昔におなじ空のもと、
燕より西岳へのごごしきほとり、
案内の若者立たせ、老人ひとり、
追憶がまふた濡らした水にうかんで
天上の千筋の雪の彷彿たるを見つめていた。

V 牧 場

山の牧場の 青草に
あまたの牛を はなちけり。
あまたの牛は ひろびろと
空の真下に 散りにけり。

夏もおわるか 白雲の
きょうも峠を こえて行く。
立ち臥す牛ら 眼を上げて
雲の行衛を ながめけり。

山の牧場に 風立ちて
夕日の光 ながれけり。
風に送られ 日を浴びて
牛は牧場を くだりけり。

VI かけす

山国の空のあんな高いところを
二羽三羽 五羽六羽と
かけすの鳥のどんで行くのかじつに秋だ
あんなに半ば透きとおり
ときどきはちらちら光り
空気の波をおもたくわけて
もう二度と帰って来ない者のように
かけすという夜の名も
人間との地上の契りの夢だったと
今はなつかしく 柔らかく
おりおりはたぶん低く啼きながら
ほのぼのと 暗み 明るみ
見る見るうちに小さくなり
深まる秋のおおくつめたい空の海に
もうほとんど消えてゆく……



91 定演後のパーティー、西高宮エコーの皆さんと(91.11)

セカンドテノール

- | | |
|--------------|--------------|
| 的野 恭一(S・28卒) | 中尾 武史(S・38卒) |
| 福井 勲(S・30卒) | 佐藤 宗一(S・40卒) |
| 徳永 弘道(S・32卒) | 徳永 武雄(S・43卒) |
| 馬頭 経明(S・34卒) | 石松 茂(S・44卒) |
| 波多江 忠(S・35卒) | 窪田 敏博(S・46卒) |
| 徳永 和彦(S・36卒) | 波左間 実(S・46卒) |
| 福田 豊(S・36卒) | 亀川 正則(S・54卒) |
| | 木下 満裕(S・61卒) |



石丸寛氏を囲むオールド・グリーンメン(92.9)

ベース

- | | |
|--------------|--------------|
| 覆田 裕一(S・22卒) | 鈴鹿 石根(S・37卒) |
| 下川 勝史(S・26卒) | 藤村 文彬(S・38卒) |
| 木道 昇(S・29卒) | 夏秋 毅昭(S・41卒) |
| 田中 義信(S・30卒) | 中垣 登(S・47卒) |
| 鶴 喜広(S・32卒) | 岩崎 嘉範(S・55卒) |
| 松枝 康匡(S・36卒) | 宮地 純(S・58卒) |

出演メンバー

トップテノール

- | | |
|--------------|--------------|
| 徳永麟之助(S・6卒) | 原田 久瑞(S・43卒) |
| 内海 洋一(S・17卒) | 本山 和文(S・44卒) |
| 秋根 武(S・25卒) | 山元 一憲(S・45卒) |
| 宮地 基嗣(S・29卒) | 倉地 進(S・46卒) |
| 乙藤 成美(S・29卒) | 杉本 哲也(S・50卒) |
| 高木 正志(S・34卒) | 中竹 茂美(S・58卒) |
| 出口 幸一(S・38卒) | |



久々の合唱祭参加(92.6)

バリトン

- | | |
|--------------|--------------|
| 林 照樹(S・24卒) | 松尾 淳郎(S・45卒) |
| 内海 敬三(S・29卒) | 小西 真二(S・46卒) |
| 下村 武俊(S・33卒) | 首藤 純(S・50卒) |
| 和田 正義(S・36卒) | 宮越 健雄(S・54卒) |
| 石川 和義(S・41卒) | 篠田 理(S・60卒) |
| 森 博彦(S・44卒) | |

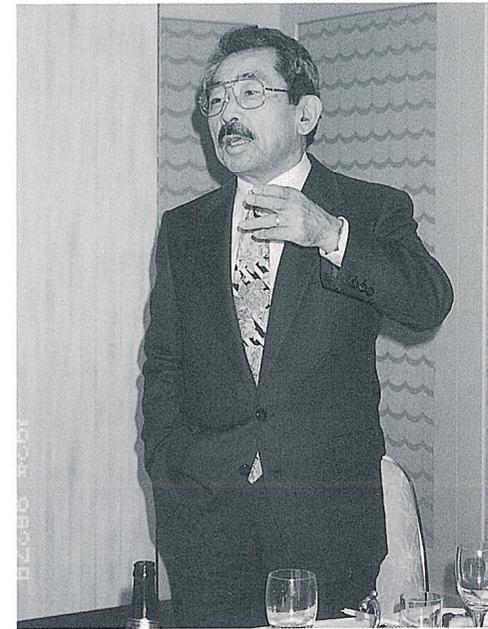


練習風景、ヤマハホールで(92.10)

あの感激がいま甦る

第一回西部合唱コンクール、九大医学部講堂に、ダイナミックなイントロと効果的加速進行の華麗な旋律が、情熱的な歌声に乗って流れた。聴衆を魅了、万雷の拍手、しばし鳴り止まない。ロシア民謡「カチューシャ」の本邦初演、青年指揮者石丸寛氏に率いられた西南グリーの自由曲の演奏が終わったのだ。その時放心ぎみに私はステージに立っていた。合唱祭で見た旧制福高(九大)、県立高女(中央高校)の充実ぶりと前評判に勝ったのだ。追われる西南グリーの宿命はこの時に始まった。その後昭和35年頃の歌声運動に乗って「カチューシャ」も他のロシア民謡同様全国を席巻するのだが、石丸氏がソ連兵から採譜し、あの日のために編曲したのは、それに12、3年も先んじていた。先日、久々、石丸氏を囲むオールド・グリーンメンの集いがあった。そして今日、あの時の原譜のままの「カチューシャ」を歌い、万感迫る思いがするのだが……そう、45年前、昭和22年5月、樟の若葉の頃であった。

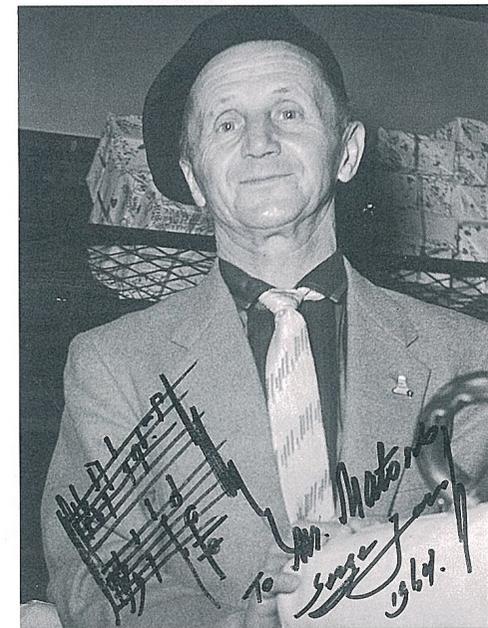
林 照樹(S・24年卒 バリトン)



石丸寛氏近影・福岡にて(92.9)

久しぶりのロシア民謡である。練習中、ドン・コサック合唱団や赤軍合唱団の話題が出た。ドン・コサックと云えば、1956年に福岡スポーツセンターで第一回の演奏会があった。ファルセットの人間ばなれした美しさ、ハーモニーの素晴らしさに驚いたことを私は思い出していた。そうだ、同合唱団の名指揮者、セルゲイ・ヤーロフ氏のサイン入り写真を持っていたはずだ。あの時博多駅で同合唱団に出会い、氏のスナップを撮ったのだ。それはその後そのままになっていた。だが八年後、市民センターでの第二回目の演奏会の時、五枚のスナップを引き伸ばして私は楽屋を訪れたのだ。氏は快く迎えてくれ、三枚にサインし、一枚にはホルガの舟歌の出だしの譜面まで書いて返してくれた。学生時代からの写真の山のなかから、ようやく三日目に探し当てた。佐藤マネージャーの要請がなかったら、おそらく日の目を見なかったに違いない。三十六年ぶりの対面となった。感慨ひとしおである。

的野恭一(S・28年卒 IIテナー)



セルゲイ・ヤーロフ氏

□絵画材料(洋画用・日本画用・デザイン用)

□版画材料(木版用・石版用・銅版用)

□額ぶち

□彫塑材料

山本文房堂

●本店/福岡市中央区大名2丁目4-32 ☎092(751)4342

●すみちか店/福岡市中央区天神2丁目住友生命ビル地下 ☎092(721)0163

●地下街店/福岡市中央区天神2丁目地下3号313 ☎092(771)2727

●西新岩田屋店/福岡市早良区西新4丁目 西新岩田屋3階 ☎092(822)0978

●マークイン/福岡市中央区渡辺通4丁目 天神ユークテラプラザ5階 ☎092(733)8890

西南シャントウールと私③



前川 達雄
CORO STELLA 指揮者

一昨年、私どもの合唱団の20周年記念演奏会の後、友人の今村昭君と武立真一さん（何れもシャントウールの団員で長崎市在住）の二人が訪ねて来られました。聞けばシャントウールが長崎来演の予定で、その時協演をしてくれないかとの申し出です。名門シャントウールとのジョイントという突然のお話で望外の喜びもありましたが、一方私たちの拙ない力では釣合わないのではないかと尻込みする気持ちもありました。団員にもはかり熟慮した結果、折角の玉の輿、お断りする手はないと結局お引き受けすることになってしまったのです。ジョイント・コンサートは平成3年10月12日、長崎市平和会館ホールで開催されました。シャントウールの力強いハーモニーに助けられ、私たちもフォスターその他の曲を力いっぱい歌うことが出来ました。演奏会後の打ち上げの楽しかったこと!!夜遅くまで歌、々、々の連続でした。有難いことに来年も再びシャントウールと協演の予定になっています。あの懐かしいハーモニーが、また長崎で聴けるのかと今からわくわくです。シャントウールの皆さん、よろしくお願いいたします。

思えば遠い昔（昭和23、4年頃）九大医学部に在学中だった私は、当時の九大の混声合唱団その名もCORO STELLAの一員として合唱活動にいそんでおりました。その頃、石丸寛氏率いる西南学院グリークラブは、全国のコンクールで優勝も狙えるような団体だったので、勿論、九大の合唱団が太刀打ち出来る相手ではありませんでした。私は西南のグリークラブを何時も畏敬の目で見ておりました。それが今のシャントウールの前身なのです。昔、足下にも及ばなかった強いライバルと今こうして和やかに協奏出来ることを私はとても幸せに思っています。そしてこの幸せをもたらしてくれた今村昭君（私の中学時代の同級生）と武立真一さんにいつも深く感謝している次第です。西南シャントウールに幸あれ!!

三十八年目の新生

プロはともかく、趣味の一つとして歌っている素人にとって、専門の作曲家にオリジナル曲を書いてもらうことは、夢のような贅沢の極であろう。そんな贅沢が実は約束された。清水脩亡き後、男声合唱の第一人者、多田武彦氏がわれわれのために組曲の作曲を約束してくれたのだ。創立40周年（1994年）記念演奏会、サンパレス（予定）で発表の予定である。多田氏の初期の作品に北原白秋の詩による「柳川風物誌」があり、男声合唱経験者なら知らぬ者はないほどのものであるが、今回も北原白秋の詩を選ぶとのことだった。長く歌い継がれる名曲を期待したい。

35、46、43、50、'89年から'92年までの定演に出演したメンバーの数である。50人体制を標榜して4年がかかった。その間、11人の諸兄が事情で一線を退く中で達成された。道の険しさと意義深さを認識せざるを得ない。ある意味でシャントウール元年か？ 諸兄の一日も速い復帰を願ってやまない。陣容は一様整った残る問題は…いずれ速い時期にボイス・トレーニングを取り入れざるを得まい。

グリーOB東京支部が発足した。今年の夏、指揮者内海先生と共にその席に同席した。本部組織発足の強い要請を受けた。千人近いOBがまるで、糸の切れた凧のような状態にいる。一日も速く糸を繋げなければと常々思っていた。来年1月、OB会発足準備会を発足させる。鈴鹿兄にその労をお願いし内諾を得た。OB諸兄のご協力をお願いしたい。毎年ご来聴くださる多くの方々に深く感謝申し上げますと共に、内外のご期待に沿うべくメンバー同一層の精進をお誓い申し上げます。最後になりましたが、RKB女声合唱団の皆様、尾籠一夫先生、香月ハルカ代表、賛助出演本当に有難うございました。みなさまの増々のご活躍を期待しています。

西南シャントウール・マネージャー／佐藤宗一
事務局／〒810 福岡市中央区今泉1-13-29
TEL 092-781-5935



《専門課程》

国際観光学科

旅行専攻・エアライン専攻

総合ビジネス学科

《専門課程》

デザイン学科

グラフィックデザイン専攻
インテリアデザイン専攻

ビジネス情報処理専攻
コンピュータ医療事務専攻
マスコミ企画編集専攻

学校法人九州県学園
専門学校 日本デザイナー学院

学校法人九州県学園
専門学校 日本ビジネススクール

〈総合校舎〉 〒812 福岡市博多区博多駅前4-18-6
〈デザイン〉(092)411-6420 ビジネス(092)411-6423

